大学病院の緩和ケアを考える会

ニューズ・レター　Vol.25 No.2
令和２年12月１日発行
大学病院の緩和ケアを考える会 事務局
〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8　昭和大学医学部 医学教育推進室
E-mail: jimukyoku@da-kanwa.org　http://www.da-kanwa.org
編集責任者 高宮有介

○ ご挨拶
○ 第26回総会・研究会開催を終えて
○ 準世話人リレー連載：
大学病院の緩和ケアを考える
○ 参加報告
○ 第７回　医学生の緩和ケア教育のための
授業実践大会に参加して
○ クールダウンエッセイ

ご挨拶　私はネガティブな人間？

代表世話人　高宮 有介（昭和大学医学部　医学教育学講座）

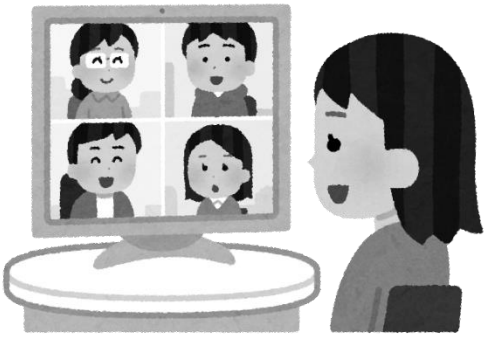
今年はCOVID-19の影響で、皆さんの診療や生活も一変したのではないでしょうか。私は昭和大学で教育の立場におりますが、学生は学内立ち入り禁止となり、講義は全てオンラインとなりました。その中で出来るだけ、Zoomでのライブ講義を行いました。1年生は入学式もなく入寮もできず、私自身、1年生と初めて会った時は感動しました。オンライン上でしたが。今年の1年生から新カリキュラムの改革予定でした。1年生で医療面接や身体診察を学び、2年生から臨床実習にでて、「患者さんから学ぶ」という原点に戻る。講義は出来るだけ無くして、オンデマンドの動画を観てもらい自学自習を行う。そのための空きコマを増やす。大学に来るのは実習、演習、グループ討議など、対面が必要なものだけにする。コロナはピンチでもありましたが、自学自習への改革のチャンスでもありました。チャンスの英文字はCHANCE。CをGに変えるとCHANGE。コロナで様々な喪失、ピンチもあったと思いますが、チャンスとチェンジに変えていければと願っています。

私はどちらかというとポジティブな人間だと思っています。しかし、ポジティブと言われて困るのがCOVID-19のPCR検査。昭和大学1年生の富士吉田の寮生活が9月からスタートしました。学生は全てPCR陰性を確認してから入寮しました。入寮後も陰性を再確認し、寮から出ない隔離生活でした。問題は東京から来る教員が感染していないかどうか。教員も富士吉田へ行く度にPCR検査を受けました。私は計5回。全てネガティブで胸を撫でおろしました。

COVID-19により、今年は様々な学会、研究会が延期、オンライン開催となりました。当会の第26回総会・研究会も、会場とオンラインのハイブリッド型での開催となりました。慣れないハイブリッド型のため、オンラインや会場での音声が不明瞭な時もあり、ご迷惑をおかけしました。業者を入れず、世話人のみで実施したのでご容赦ください。テーマは、「急性期病院での緩和ケア～難治性疾患への緩和ケア」でし

た。特別講演には「COVID-19 パンデミックと臨床倫理」であり、この時期にあったテーマも取り上げて頂きました。東海大学の竹中世話人、長嶋世話人初め、東海大学の皆様には、大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。

また、第 7 回授業実践大会も完全オンライン開催でした。私は授業のライブ感を出すために 3 台の PC を駆使して、鉄板の「死から生といのちを考える」講義を実施しました。医学生は昭和大学、東邦大学、国際医療福祉大学、岩手医大、順天堂大学など多くの学生が参加し、活発に意見交換してくれました。また、岡山や愛媛大学の緩和ケア医が遠方から参加し、オンライン開催の恩恵もありました。対面の良さも自覚しつつ、オンラインに精通する必要性も実感しました。



第 26 回総会・研究会を終えて

当番世話人　竹中元康（東海大学医学部医学科専門診療学系緩和医療学）

2020 年 9 月 12 日に第 26 回大学病院の緩和ケアを考える会総会研究会を開催するに当たりを長島看護師と共に当番世話人を務めさせていただき無事終了できましたことを会員および関係者の皆様にお礼を申し上げます。今年は多くの学会・研究会が COVID-19 の影響を受け春以降は中止や延期あるいは Web 開催となっている状況の中、心配ではありましたが 9 月にはある程度鎮静化し会場開催ができるのではないかとの思いでいましたが、その甘い予測に反して感染流行の情勢改善はなかなか見込めず本会も近隣者及び本学関係者は会場、他の方は Web での参加というハイブリッド方式での開催となりました。不慣れな進行もあり直接および Web それぞれにおいてご参加者の方々にご迷惑をおかけしましたことをこの紙面を借りてお詫び申し上げます。手作り感あふれるアットホームな研究会だったということでお許しいただければ幸いです。

しかしながら研究会の内容に関しましては自負しておりましたが、実際に充実した内容の良いものであったとのご意見もいただきうれしく思っています。特別講演 1 で新井先生緩和ケアにおける東洋医学並びに漢方薬の役割・有用性を、また特別講演 2 では竹下先生より COVID-19 流行下での ACP への対応をはじめとした緩和ケア上の問題に加え医療における倫理問題についてお話しいただきました。両先生ともに分かり易く親切にお話しいただき大変好評でした。シンポジウムでは主として呼吸不全・COPD について医師・看護師・理学療法士・管理栄養士・社会福祉士がそれぞれの立場から日頃の活動のなかで注意点や苦労点をはじめ取り組みなどをお話しいただき呼吸不全患者への緩和ケア的対応の必要性を認識させられる内容でした。現在は心不全への緩和ケア的取り組みが注目されていますが、今後呼吸不全についての緩和ケアも注目し取り組んでいく必要がある事を再認識できる有意義な内容となりました。

つきましても、Web 学会の良さ・便利さは理解できますが、やはり私の様なアナログ人間には会場で直接講演を聞き皆様と話をする会が懐かしく思われます。来年は是非そのような会が開催できる状況になっていることを願っています。

最後に、いろいろお世話になりました高宮先生、事務局（濱田様）はじめ世話人の皆様に感謝いたします。今後も皆様のご助言・ご協力をいただく機会があると思いまのでその際には何卒よろしくお願いいたします。

☆準世話人リレー連載　大学病院における緩和ケアを考える
島根大学医学部附属病院緩和ケア病棟のコロナ禍対応

島根大学医学部　緩和ケア講座　中谷　俊彦

私が中学生時代に大流行した「ノストラダムスの大予言」が大外れしてから早 20 年経過したとき，まさかの「恐怖の大王」として新型コロナウイルスが降ってきました。県民人口が本邦下から 2 番目の島根県，過疎県の利点を活かして感染者ゼロでちょっと踏ん張るも，あっという間にコロナ禍の渦に飲み込まれま

した。附属病院・医学部共々総力を挙げての対応に（後回しにした他の厳しいノルマがいくつも・・・涙目で辛い），皆必死です。緩和ケアの本質に，ご本人と大切な方々との絆が欠かせない点にあることを皆分かってはおりますが，院内への感染波及は絶対阻止しなければならず，面会禁止を厳命する病院の方針に従うこととし，スタッフの理解をいただきました。しかし現実は，面会禁止の院内掲示にかかわらず，病棟に来られたご家族みなさまに規程をお守りいただくよう直接お願いした病棟スタッフが，面会すら許されない無慈悲な規程への悲痛な叫びを受けて，大変辛い思いをしたものでございます。しかし病棟看護師の咄嗟の発案で，患者さんを公衆電話の会話へとお導きしたこともありました。電話ごときで島根県が非文明的と思われては辛いので，IT 活用として病棟内に無料 Wi-Fi を設備してタブレット使用のオンライン面会も可能としました。現時点でもオンライン面会を優先しておりますが，個室患者さんへの面会は主治医からの許可がある方々に対して，2 週間の体調・当日体温・移動歴行動歴等の問診票などのチェックを行い，原則 1 名 15 分以内としています。但し，感染注意地域からの来訪者は原則禁止で，14 日間の県内滞在をお願いしています。

学生教育に与える影響も多大です。5 年生の緩和ケア病棟臨床実習は，直接患者さんから全人的苦痛を教えていただき，それに対して学生ができる対応（私の課題：お世話になった患者さんにお礼として何か面白いことをせよ（大笑いさせたら褒めてつかわす），もしくはホッとする癒やしでも良かろう）もできなくなり，オンライン教育（課題を与えて自主学習⇒Web による討議とまとめ）対応で，不十分さは否めません。

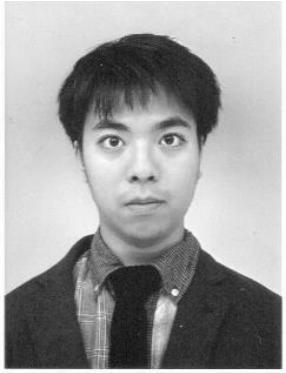
緩和ケア病棟スタッフとして大切な方々との面会制限を強いる辛さ，しかし新型コロナウイルスの院内への波及は絶対に防がねばならぬ状況下で少しでも患者さん・ご家族に寄り添いながら，知恵を絞り歩み

続けるスタッフが眩しく輝き，私には言葉もない日々でございます。

第７回医学生の緩和ケア教育のための授業実践大会に参加して

昭和大学　医学部３年　香川直輝

今年も大会に参加できたことを嬉しく思う。私は大学一年生の頃に髙宮先生に会について教えていただき、また、自身も大学でクラスの教育委員をしており医学教育に関して深く興味があり、今回で 3 回目の参加となる。昨年度までは緩和ケア教育を学生にどう行うべきかグループに分かれて、話合い発表する形式だが、今回はオンライン開催であった。私自身オンライン講演は好きではなく、惰性的な参加だったが、始まると遠方の大学の先生方や学生、緩和ケアを専門の先生方と交流でき、知見が広げられた。また、講演では高宮先生のお話以外にも結束先生の「死亡診断時の医師の振る舞い」の講演は法医学で習った死亡診断を実際にどのように教育しているのかを知れ、私も学生時代からこのような授業を受けたいと感じ、細谷先生の「緩和ケアに対するチーム医療」の講演は建築学科も参加していることは興味深く、私も建築学科の友人と談義したい。また、話合いでは他大学の学生が緩和ケア医を目指していると聞き、自分の将来の医師像の形成へ一助となった。



全体を通して、自分が受ける医学教育が様々な先生方や学生の尽力の上で成り立っていることを改めて実感し、今後も勉強に励みたい。

岡山済生会総合病院　緩和ケア科診療部長　石原辰彦

2020 年 11 月 7 日医学生の緩和ケア教育のための教育実践大会がオンラインで開催されたので、遠く岡山の地から参加させていただいた。この会に参加するのは初めてですが、多職種に

対するオンライン教育の可能性に強い興味があり参加しました。と言うのも、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、大学教育がほぼオンラインとなった頃、「コロナが落ち着いたら元の大学の姿に戻れるのか」と言う問いに対し、ある大学の学長は「元には戻れない、オンライン授業と対面授業の長所を組み合わせた新しい大学の姿となる」と答えられていたからです。今回はオンライン開催であり、いつもの教育実践大会とはプログラムが異なるようですが、3 人の演者が異なる取り組みを発表されました。高宮有介先生は大画面テレビの横に立ちプレゼンし、オンラインでもライブ感があり、講師のパッションが伝わるような工夫でした。結束貴臣先生は、ロールプレイで医師の態度の悪い例と良い例を提示され、オンラインでもロールプレイが実践できる可能性を示されました。細谷治先生は、４つの大学での模擬患者を用いた多職種連携教育の企画を披露していただきました。Zoom のブレイクアウトルームを利用してアイスブレイクやリフレクションを行うことに興味をひかれました。様々な試みが行われ、それらに現役の医学生の感想がすぐに得られ、教育を提供する側と提供される側の意見交換が行われることは、この会の特徴です。今後も機会があれば参加させていただきたいと感じました。

日本死の臨床研究会　第 27 回関東甲信越支部大会 WEB 開催に参加して

川崎市立多摩病院看護部　伊藤優子

2020 年 9 月 27 日に開催された日本死の臨床研究会第 27 回関東甲信越支部大会に参加しました。当初、2020 年 6 月 7 日に開催予定でしたが COVID-19 対応で延期となり、WEB 開催となりました。私は実行委員として、研究会の準備のお手伝いをしていましたが、所属施設から大人数での会議・研究会等の許可がおりておりませんでしたので自宅から参加しました。

研修会のテーマは「いのちと向き合うあなた自身のケア」で、昭和大学高宮有介先生による「セルフケアできていますか？～マインドフルネスを活かして」、昭和大学副島賢和先生による「自分も相手も大切にするかかわり～喪失に向き合うために～」、桜町病院三枝好幸先生と桜町病院オカリナ同好会による「癒しのオカリナタイム」、曹洞宗僧侶藤田一照先生と都立駒込病院栗原幸江先生と東京工業大学中野民夫先生による「『死にゆく人とともにある』ためのワークショップ：GRACE プログラムを体験してみよう」という大変興味ある内容でした。

高宮先生の講演は、いつお聴きしても患者との関わりが自分のことのように共感できました。マインドフルネスは、医療者、特に緩和ケアに興味を持って医療に携わる人にはとても大切なことであると思っています。講演を通してマインドフルネスについても理解が深まり、現場実践やスタッフ支援に活かしていこうと思いました。

副島先生の講演では、小児科経験がなく、所属施設でも急性期疾患が中心で死に直面する小児の状況を知りとても衝撃でした。小児であっても、成人と同じように喪失を体験し、個々の成長は異なっても意味を見出し、乗り越えていました。死にゆく人の家族である小児に普段から上手く関われていないと感じていますが、小児自身が死に直面しているのは切ないことです。COVID-19 の影響で所属施設では面会制限が続いており、なかなかご家族には対応できませんが、小児にも意識を向けて関わりたいと思いました。

癒しのオカリナタイムでは、久しぶりに大好きな音楽の生演奏を聴くことが出来ました。ミュージカルやライブ、コンサートが好きでよく聴きに行きますが、今年は予約したチケットがことごとく COVID-19 の影響で中止でした。思わず口ずさむ聴き慣れた音楽を、オカリナの優しい音色で気持ちが和む良い時間を頂けました。

GRACE では、初めて講義を聴き、体験をしました。Being With Dying－死にゆく人と共にあること」というプログラムは、緩和ケアを実践している私には参考になる経験でした。グループワークでは、zoom で割り振られたメンバーと自己紹介や自分自身の思いを語り、共有する貴重な時間を得られました。様々な学会・研究会・講演会が中止となっていましたが、WEB 開催では自宅から参加出来て時間を有効に使えることや地方開催でも参加しやすい利点があると実感しました。又、参加している方は緩和ケアを通してつながり、広がっていると思いました。

これからもこの貴重な体験を緩和ケアの実践に活かし、人とのつながりを大切に努力したいと思うよい研究会でした。皆様も機会がありましたら、ぜひご参加下さい。